

## 中医協「2008年度第6回 診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会」 再入院率の高い病院等を対象にヒアリング実施

中医協の診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会（会長：西岡清・横浜市立みなと赤十字病院長）は12月1日、前回（11月12日開催）に引き続き特別調査（ヒアリング）を実施した。今回は、「再入院について（3日以内の再入院率が高い医療機関、4～7日以内の再入院率が高い医療機関）」と「適切な診療報酬の請求について（主要な診断群分類の1日当たりの包括範囲出来高点数の平均が全体の平均に比べて著しく高いまたは低い医療機関、主要な診断群分類の平均在院日数が全体の平均より著しく長いまたは短い医療機関）」をテーマに実施し、8病院がヒアリングに召集された。



左から原正道分科会長代理、西岡分科会長、佐藤医療課長、宇都宮企画官

今回ヒアリングの対象になったのは以下の8病院（発言者の敬称略）。

### 【再入院について】

医療機関名	発言者（印は説明者）	病床種別・数
佐賀県立病院好生館	副館長 林田 潔	一般:526床 緩和ケア:15床
医療法人社団平成会 藤枝平成記念病院	院長 平井 達夫 脊椎脊椎疾患治療センター長 花北順哉	一般:124床 療養:86床
社団法人蒼龍会井上病院	院長 田畑 勉	一般:127床

### 【適切な診療報酬の請求について(包括範囲出来高点数の割合)】

医療機関名	発言者	病床種別・数
独立行政法人労働者健康福祉機構 熊本労災病院	院長 小川 道雄	一般:410床
山梨大学医学部附属病院	副院長 久木山 清貴	一般:566床 精神:40床
総合病院岡山市立市民病院	院長代理 東 俊宏 リマセンター長 臼井 正明	一般:375床、結核:12床 亜急性期:18床
総合病院福島赤十字病院	院長 芳賀 甚市	一般:309床 精神:40床

### 【適切な診療報酬の請求について(平均在院日数)】

医療機関名	発言者	病床種別・数
京都第二赤十字病院	院長 中島 正継 産婦人科部長 藤田 宏行	一般:639床

### **好生館 外来化学療法実施後の管理が地域の外来でできない**

このうち佐賀県立病院好生館に対しては、07 年度と比較して、前回入院と同一傷病（診断群分類番号の上 6 桁が同一である傷病）による 3 日以内の再入院の割合が大幅に減少し、4～7 日以内の再入院の割合が大幅に増加したことからヒアリングが行われた。同館が実施している化学療法の半分以上は血液悪性腫瘍患者に対するもの。3 日以内の再入院率が高かったことについて、70 歳以上の高齢患者が多く入院による化学療法が主体になることに加え、化学療法を実施した後の管理ができる医療機関が少ないため入院期間が長引き、退院から次のクールまでの期間が短くなると説明。また、4～7 日以内の再入院率の増加については、レジメンを見直したことによる標準化と、外来化学療法の頻度を増やし退院期間を長くする方向にシフトしていることから、「ごく短期の再入院が減った影響」とした。

西岡分科会長は「好生館のある地域だけが高齢者が多いわけではない」と指摘したが、好生館は「本来なら外来で管理をしてくれる医療機関があれば帰せるが、そのような医療機関がないために帰せない」と“地域事情”を強調した。小山信彌委員（東邦大学医療センター大森病院心臓血管外科部長）の「再入院率が高いと、必要な期間の入院が行われず粗診粗療になっているのではないかと中医協で言われている」との指摘に対しては、「急変や悪化ではなく、化学療法の計画による再入院」と粗診粗療を否定した。

### **藤枝平成記念病院 手術日と検査日のスケジュールの都合**

一方、藤枝平成記念病院は、脊随脊椎疾患治療センターの手術日と検査日のスケジュールと手術件数の増加が短期の再入院率増加の要因とした。同センターでは、手術適応を判断する脊髄造影、椎間板造影等の検査日を火曜日に実施しているが、手術日は火曜日～木曜日であるため、カンファレンスや患者への説明等を行うと「どうしても手術までの間が空くため、いったん退院してもらおう」と説明。西岡分科会長は「検査日と手術日が合わないという理由なら、今の流れとしては、患者メリットのために検査日か手術日を変えてスムーズに実施する努力をすべき」と述べ、「病院のプロセスを改良するのも DPC の目的であり、他の医療機関ではやっている」と改善策の検討を促した。

### **井上病院 合併症や転倒が予期せぬ再入院の要因**

入院患者の約 66%が透析患者という井上病院は、透析患者の高齢化が進み、糖尿病による末期腎不全による透析患者が増加していることから、動脈硬化症が進んだ患者や腎以外に多くの合併症がある患者が多いほか、高齢透析患者では退院後の転倒事故で再入院するケースもあることが、4～7 日以内の化学療法なしの再入院率が高い要因と説明した。また、腎不全以外の疾患（憩室炎、皮下出血、顔面神経麻痺、肺炎、限局性アミロイドーシス、腹腔内出血、急性胃炎）の悪化による再入院も主病名が「腎不全」である点について、西岡分科会長は「DPC のとらえ方として適切なのか」と疑問を呈した。「週 3 回の透析を行う

と、他の病名で入院した患者でも医療資源を最も多く費やした病名は腎不全になってしまうのが現在の DPC のルールだと把握している」との井上病院の回答に対し西岡分科会長は「そのあたりがすっきりしない」と述べたものの、それ以上は言及しなかった。

### 熊本労災病院・山梨大学医学部附属病院 心カテ検査の材料費等の違い

診断群分類 050050xx9910xx (狭心症、慢性虚血性心疾患、手術なし 心カテ検査あり)

施設類型	施設名	症例数	出来高/包括 1
2008 年度 DPC 対象病院	熊本労災病院	62	73.35%
2003 年度 DPC 対象病院	山梨大学医学部附属病院	24	210.60%
DPC 対象病院 2		20,217	98.82%

「狭心症、慢性虚血性心疾患、手術なし 心カテ検査あり」の 1 日当たり包括点数に対する包括範囲出来高点数の割合が低い熊本労災病院は、その理由を入院前に検査を済ませていることと、造影剤にジェネリックを使用している点を挙げ、さらに「右心カテーテルは心エコーで代用しており、超音波プローブ検査は機器がないため実施していないことが、包括の中に含まれる出来高が低い要因」とした。一方、出来高点数の割合が高い山梨大附属病院は、「心カテ検査で使用する材料費、特に血管内超音波プローブ、ワイヤーフローの使用例が多いことが、材料費が高い要因」と説明。また、山梨大附属病院では造影剤にジェネリックは使用していないとした。

「カテ検査により多くの情報を得られれば、患者メリットは大きい」とする山梨大附属病院に対し、左室カテーテル検査などを全患者には実施していない熊本労災病院は、「熟練した循環器専門医を増やすことによって、検査対象患者を絞り、その結果、カテーテルの使用量が減った」と述べた。

### 岡山市民病院・福島赤十字病院 外来化学療法室の未整備が要因

診断群分類 070470xx99x3xx (関節リウマチ 手術なし インフリキシマブあり)

施設類型	施設名	症例数	出来高/包括 3
2008 年度 DPC 準備病院	岡山市民病院	37	188.98%
2007 年度 DPC 準備病院	福島赤十字病院	39	171.77%
DPC 対象病院 2		1,581	100.60%

「関節リウマチ 手術なし インフリキシマブあり」の 1 日当たり包括点数に対する包括範囲出来高点数の割合が高い病院としてヒアリング対象となった岡山市民病院と福島赤十字病院は、いずれも準備病院。両院とも短期入院でインフリキシマブ投与を行っていることが包括範囲出来高点数の割合が高い理由と説明し、外来化学療法室の整備後は外来で行うと述べた。宇都宮企画官が質問した外来化学療法室の整備予定は、岡山市民病院が 07 年 12 月中、福島赤十字病院が 09 年 3 月。

## 京都第二赤十字病院

診断群分類 120020xx99x40x (子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 化学療法あり 放射線療法なし)

施設類型	施設名	症例数	平均在院日数
2006 年度 DPC 対象病院	京都第二赤十字病院	11	1.27
DPC 対象病院 2		3,045	6.22

京都第二赤十字病院は、「子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 化学療法あり 放射線療法なし」の平均在院日数が短い点について、「短期入院で安全に実施できる。全身状態が良ければ、日帰り入院か 1 泊 2 日で可能」と説明。山口俊晴委員（癌研究会有明病院消化器外科部長）も同意した。他の医療機関の平均在院日数が長い点については、「日帰りや 1 泊 2 日だと病院の持ち出しになるため、入院期間を長くしているのではないか」（京都第二赤十字病院）と指摘した。

- 1 診断群分類点数表において包括される診療行為、薬剤、材料を出来高で換算したものを診断群分類点数表による点数で除したもの
- 2 DPC 対象病院とは、2003～2008 年度 DPC 対象病院の症例を対象に集計したもの
- 3 診断群分類点数表において包括される診療行為、薬剤、材料の出来高実績を診断群分類点数表の換算点数で除したもの